

進捗状況の概要

平成 27 年度には、以下に具体的に示す取組を通して、アクティブ・ラーニング（以下 AL）の導入促進および多面的な学修評価方法の開発に向けて基盤となる制度や仕組みの整備・導入と予備的検討を行った。

まず、施策 1「学域・学類の中核をなす科目群でのアクティブ・ラーニングの深化・充実」に係っては、主に 4 点の取組を実施した。1 点目は、AL 型授業を先導的に実践している科目として各学類 4～6 科目、計 51 科目の**パイロット科目**を選定し、それらの科目の**授業カタログ**を収集・蓄積し、学内教員に対して公開したことである。授業カタログとは、授業担当教員が学生の学修目標、授業概要、各回授業での学修内容・学修活動・学修方法と授業前後の学修（予習・復習）、授業の振り返りコメントなどを記入した授業実践記録である。優れた AL 型授業の授業カタログを公開することにより、各教員が学問分野や授業形態、対象学年等に適した学修活動や学生の学びを深める工夫を互いに参考にし、自主的な授業改善を行うことを求めた。2 点目は、人間社会学域における学域共通科目、理工学域における学類専門基礎科目のうち、それぞれ約 50%を **AL 重点拡充科目**として選定し、AL の導入試行や深化に向けた教員への意識向上と AL 型授業の実施への促しを図ったことである。3 点目は **FD リーダー制度**の導入と FD リーダー研修会の実施である。FD リーダーとは、教員の教育方法と学生の学修方法の開発・普及にあたって学類の中心的かつ指導的な役割を務める教員であり、平成 27 年度より各学類 2 名が選出された。また、FD リーダーが職務遂行にあたり求められる知識や能力の向上を目的として計 3 回の研修会を開催した。4 点目は学内の教職員を対象にした **AL・FD 研修会**の実施である。「アクティブ・ラーニングによって学生は力をつけているか」をテーマに行い、AL 型授業による学修成果に関する理解と議論を深めた。

施策 2「アクティブ・ラーニングに適した学修環境の活用・展開」に関わっては、AL 教室の整備・活用とアクティブ・ラーニング・アドバイザー（以下 ALA）制度の導入を行った。可動式の椅子・机、グループワーク用のホワイトボード、短焦点プロジェクタなどを設置し、臨機応変に教室レイアウトを変えられ、かつグループ学修を効果的に進められる **AL 教室**を計 9 教室整備したとともに、情報発信や本事業に係る研修会等での使用を通してその活用方法に関して周知した。また、AL の充実と質の高度化を目的として、本学の学士課程 2 年以上の学類生および大学院生が授業時間内外において受講生の学修支援にあたる **ALA 制度**を導入した。平成 27 年度は計 27 科目において 68 名の ALA が採用され、専門教育科目で学修支援活動を展開した。ALA に対しては事前の研修会と事後の報告会を実施し、学修支援に関する知識・能力を持つ質の高い ALA の育成とその経験共有・継承を図った。

施策 3「学修過程・成果の可視化による学修評価の定量的評価（教学 IR）」については、主に次の 4 点から取組を実施した。1 点目は**学生実態調査**である。人間社会学域および理工学域の全学類、全学年から抽出した学生約 200 名を対象にフォーカス・グループ・インタビュー（以下 FGI）を実施し、学生の学修行動性向や学修活動に関する全体状況や各学類の特質、学生の主体的な学びの促進を図るための課題を明らかにした。また、FGI の結果に基づく卒業生対象のアンケート調査を実施し、教職員との関係やアドバイス教員制度等バックアップポリシーの策定に係る現状と課題を把握した。2 点目は、**学修ポートフォリオ**の試行結果に基づくプロトタイプ開発である。学生が授業の成果物、単位修得状況や各科目の成績等を科目横断的に確認し、振り返ることができるオンラインシステムが学修ポートフォリオであるが、既存の学習管理システムに配備されている機能を実際の科目において試行し、機能の適用範囲を確認した。3 点目は、ルーブリックに関する FD リーダー研修会や各学類の FD 研修会を実施したことである。ルーブリックとその活用方法についての認識共有を図りルーブリック作成の機会を設けることによって、長期の **AL ルーブリック**開発に向けた基盤を整えた。4 点目は、質的な学生実態調査による教学 IR の実施や意義、先進的な教学 IR 実践事例に関する**教学 IR 研修会**を実施したことである。これにより、本学の教職員における教学 IR への理解と普及促進を図った。